

# 奥能登産米の品質向上技術情報

～品質向上の要は、まず初期生育促進！～

## 《活着後は浅水管理で穂になる分けつを早期に確保》

### I 田植え後の水管理（活着期）

田植え後5日間程度は、3～5cmの保温的な水管理で、低温や風、乾燥による植傷みを回避し、活着を促進しましょう。

田植え作業で一部の根が切断されて吸水力が劣っているため、乾燥しやすい条件では植傷みが発生します。また、育苗後期に外気に慣れていないと、低温や風による植傷みも発生し、活着が遅れます。そのため、田植え後は、速やかに入水し、5日間程度はやや深水で活着を促進しましょう。4～5日程度で新しい根が発生し、芯葉が伸び始めて活着します。

※稲の葉身がシャキッとしてきたら、活着した合図です。次の水管理作業に進んで下さい。

### II 活着後の水管理（分けつ期） **重要!!**

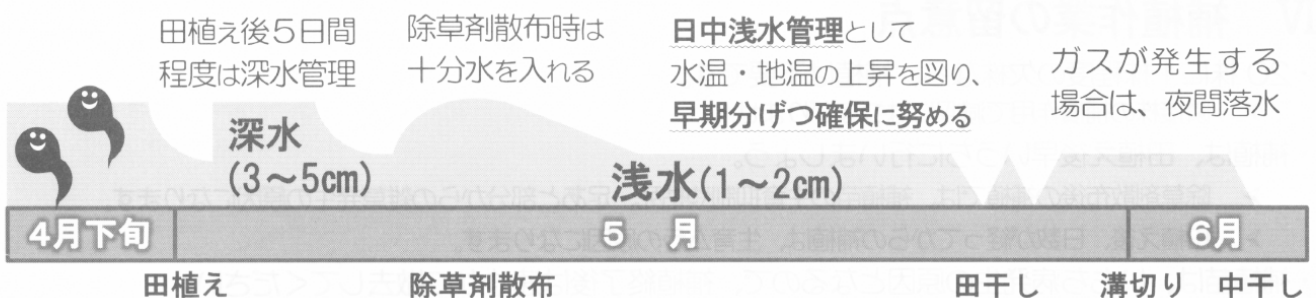


**活着後**は、2cm程度の**浅水管理**を実施し、地温と水温の上昇に努め、**早期の分けつ発生を促進**しましょう。

- ・分けつの発生は気温よりも水温・地温の影響を強く受けます。
- ・田面が露出しない範囲で浅水管理を行い、出来るだけ地温を上げて初期生育を促進させましょう。
- ・入水を日中に行くと地温が低下するので、早朝または夕方に行い、日中は止め水に努めましょう。  
(入水を日中に行くと、特に水口付近の水温・地温が低下し、生育ムラの原因にもなります)
- ・ガスが発生する場合は、夜間落水で土壌への酸素供給とガス抜きを行い、根の健全化を図りましょう。

※ 低温が続く場合や強風時のみ保温のため深水管理（葉先が隠れない程度）にしましょう。

#### 田植え後の水管理のイメージ



# なぜ、浅水管理が重要なのか…?!

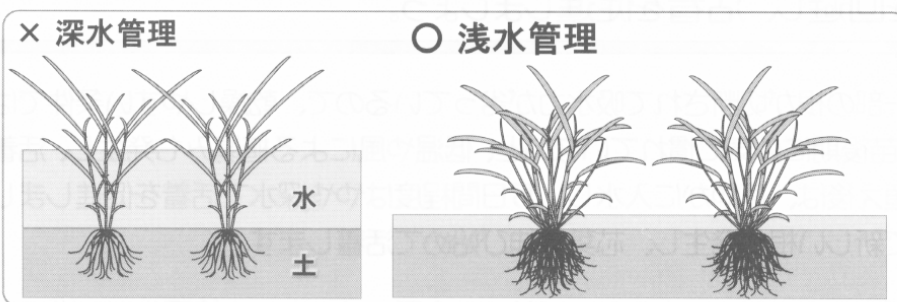
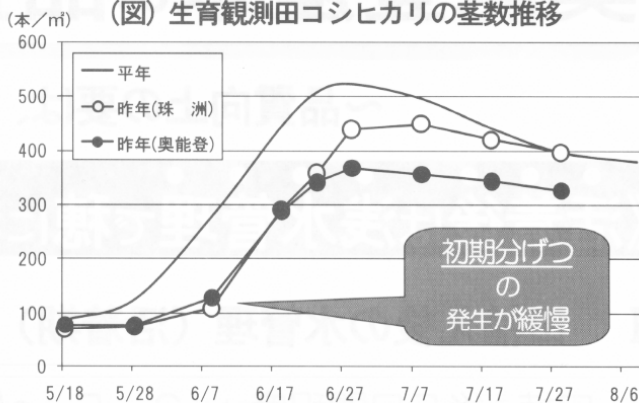
近年、田植え後の寒さ対策として、過度の深水管理が目立ち、分げつの発生が遅れています（図参照）。

そのため、中干しの遅れや不徹底を招き、登熟に必要な根の発達を阻害されるとともに、遅発分げつの発生により出穂や登熟がバラつき、未熟粒による品質低下や、屑米の発生による減収を助長しています。

また、長期の深水管理は、藻や表層剥離の発生を招き、地温が上がらず生育をさらに抑制させています。

本年は、田植え後の水管理を徹底し、早期から穂になる分げつを確保しましょう。

(図) 生育観測田コシヒカリの茎数推移



## 田植え後1ヶ月の水管理が勝負です!!

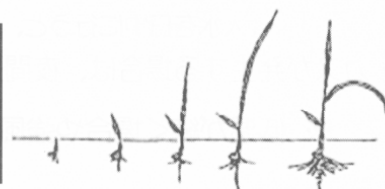
### Ⅲ 除草剤の適正使用

除草剤の使用にあたっては、使用時期・使用量を厳守しましょう。

- ・除草剤の有効成分は、一旦水中に溶解した後、徐々に土壌表面に吸着され除草効果を発揮します。安定した効果を得るためには散布後7日間は止め水にし、落水やかけ流しはやめましょう。
- ・雑草は代かき直後から発生し始めることから、代かきからの日数と気温に留意し、除草剤の適用葉齢の範囲内で遅れずに散布しましょう。

(参考) 代かき後の日数とノビエの葉齢の関係

ノビエの葉齢		1.0 葉期	1.5 葉期	2.0 葉期	2.5 葉期	3.0 葉期
代かき後の日数	珠洲(平年)	9日	14日	19日	23日	27日
	輪島(平年)	8日	13日	18日	22日	25日



※5月1日に代かきを行なった場合を平年の有効積算温度により試算

### Ⅳ 補植作業の留意点

- ・20株に1株程度の欠株なら、補植は不要です。
  - 隣接株の補償作用で減収にはつながりません。
- ・補植は、田植え後早いうちに行いましょう。
  - 除草剤散布後の補植では、補植苗の生育抑制や枯死、足あと部分からの雑草発生の原因になります。
  - 田植え後、日数が経ってからの補植は、生育ムラの原因になります。
- ・補植苗は、いもち病発生の原因となるので、補植終了後は速やかに撤去してください。